

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	富永哲志	所属	日本スポーツ振興センター
研究会等名称	体育・スポーツ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 2名（うち認定心理士 0名） 非会員 19名（うち認定心理士 0名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>【目的】 本集会の目的は、運動・体育・スポーツに関連する現象に対して、体育・スポーツ心理学的観点から、各々の参加者が各自の研究成果を生産するための建設的な議論を展開することであった。</p> <p>【内容】 本集会の内容は、事前に発表希望者を募り、発表希望者が自身の研究に関わる内容についてプレゼンをし、そのプレゼン内容に沿って、当日の参加者の方と積極的な意見交換を交わすことで、研究の進捗を促進するものであった。 今年度は隔週木曜日に開催され、計 13 回の研究集会を実施した。具体的にはリサーチプロポーザルに向けた発表練習、研究内容相談および意見交換会、博士論文の構成について、学外の研究会に向けた発表練習、学内の論文審査に向けたリハーサル、を中心とした内容を基に参加者間で議論を展開した。</p> <p>【成果】 本集会の成果を下記に記す。</p> <p>① 2020 年度より続いたコロナ禍規制緩和に伴い、今年度からオンライン形式のみならず対面形式を取り入れたハイブリッド型で集会を開催することができた。</p> <p>② 大学院生を中心として新たな研究集会メンバーも加わった。Chatwork アプリ（無料）を活用し、資料共有及び運営の円滑化を図った。</p> <p>③ イップス、中枢情報処理能力、認知的方略、リーダーシップ、自動思考、自己調整学習、自己効力感、対人的感情制御、Quiet Eye トレーニング、起床時コルチゾール反応のように毎回の集会で幅広いテーマを基に議論を展開することで、発表者のみならず参加者にとって学識を深める機会となった。</p> <p>④ 本集会の議論を基に各々が学会発表を行うなど研究成果の発信に努めた。そして、本集会の参加者から新たに 1 名の博士号、6 名の修士号取得者を輩出するに至った。</p> <p>【将来計画】 今後も引き続き、集会を実施し、体育・スポーツ心理学の発展に貢献すべく議論を展開していく。特に他集会成为員間との交流も積極的に図っていきたい。</p>		

(様式5)

年 月 日

日本心理学会研究会 2023 年度会計報告書

研究会名称 体育・スポーツ心理学研究会

研究会番号 研23024

助成金額 ¥40,000

年 月 日	項 目	金 額
		¥0
	返金（日本心理学会）	¥40,000
支出合計		¥40,000